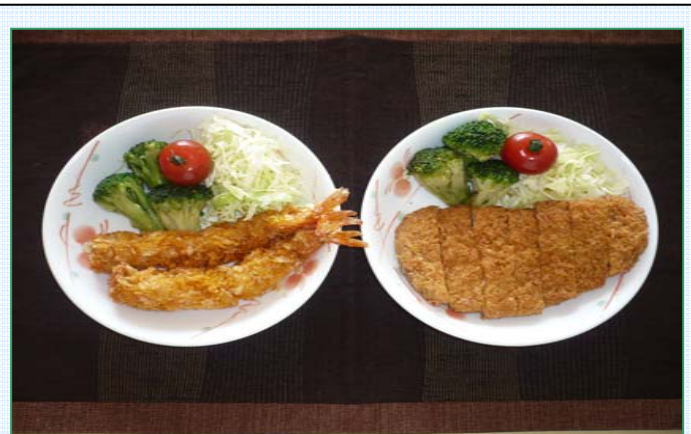


～ 3月の選べるメニュー ～



今月の「選べるメニュー」は、洋食の中でも幅広い世代に人気のある「海老フライ」と、食べごたえ満点の大きな「豚カツ」でした。サクサクの衣を身に纏った「海老フライ」と「豚かつ」。どちらも大好評でした。

～ 4月の行事予定 ～

★ チェロ・ピアノ 演奏会
4月 4日 (月) 午後1時30分 2階

～ 音楽療法 ～ 【太田先生】

4月13日 (水)、27日 (水)
午前10時30分～ 3階



～ 当施設職員がマラソン大会で優勝 ～

建国記念日の2月11日 (金)、第36回国営武蔵丘陵森林公園ハーフマラソンにフードサービス部職員の金子遼さんが出場し、1時間14分36秒の好タイムで、見事優勝しました。出場選手数は1473名でした。今後益々のご活躍を期待しております。

編集後記

この度の震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

停電や日用品の不足等により多少の不便さは感じますが、今までの豊かな生活を見直す機会になっています。物が無いところから生まれる譲り合いや支え合いもあります。今自分ができることを考え、そして実行しつつ、被災地の一日も早い復興を願っております。

編集代表 清水 みゆき

～ 4月の趣味の教室 ～

★ 書道教室【大倉先生】
● 4月 11日 (月)
● 4月 25日 (月)
午後1時30分～

★ 陶芸教室【齋藤先生・梶谷さん】
● 4月 22日 (金)
午後1時30分～

～ 定例催し物 ～

★ 音楽会【さくら草】
4月 7日 (木) 午後1時30分 2階
4月 28日 (木) 午後1時30分 3階

★ 音楽会【宮岡久美子さん】
4月 6日 (水) 午前10時30分 2階
4月 12日 (火) 午後1時30分 2階

★ 朗読
【権田さん・根岸さん・高橋さん】
4月 8日 (金) 午後3時30分 3階
4月 15日 (金) 午後3時30分 2階
4月 20日 (水) 午後3時30分 2階
4月 22日 (金) 午後3時30分 2階
4月 27日 (水) 午後3時30分 3階

★ 編物【梶谷さん】
4月 5日 (火) 午後1時30分 2階
4月 19日 (火) 午後1時30分 2階

★ 詩吟【佐藤先生】
4月 20日 (水) 午後1時30分 2階

★ 折紙【田中さん】
4月 6日 (水) 午後1時30分 2階

手芸作品
「おひな様」



いづみのホームページ <http://www.kokoro.or.jp/izumi-care/>

介護老人保健施設いづみケアセンター



〒355-0807 埼玉県比企郡滑川町和泉 873
TEL0493-56-6123 FAX0493-56-6124

この度の「東日本大震災」でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。いづみケアセンターは、被災された要援護者の受け入れ要請に応じる他、可能な限りの支援をさせて頂く所存です。私達は決して一人ではない・・・今こそ全国民が心をひとつにして悲しみや苦しみを分かち合い、耐え忍ぶ時期であると思います。私達はあらゆる協力を惜しみません。被災地の惨状をマスコミ報道等で見ますと、被災者の皆様の心中察するに余りありますが、力強く復興を果たされる日が来ますことを切に願っております。

新年度を迎えるに当たって

施設長 内田 三千則

震災の数日前に予てより話題となっていた「太平洋の奇跡」という映画を観た。大東亜戦争末期に於ける日本軍サイパン島守備隊と、圧倒的な軍勢力によって攻め立てるアメリカ軍との戦いを描いた映画である。主人公の「大場栄（おおばさかえ）」は、敗戦濃厚な戦況下で玉砕攻撃を執行した日本軍にあって、生き残った敗残兵を統率して頭脳的にゲリラ戦を戦い、多くの民間人をも救った実在の陸軍大尉である。この映画は大場大尉の生き方を通して、「リーダーはどうあるべきか」というその資質を問いかけている。部隊全滅という極限状態の中、誰もが絶望感に襲われ平常心ではいられない。しかし大場大尉は冷静さを失うことなく、命を尊び、適切な判断で軍民を束ねていく。アメリカ兵からは「フォックス」と呼ばれて恐れられたが、やがて畏敬される様になっていく。大場大尉は終戦まで戦い、そして生き延び、多くの日本人の命を守り抜いた。嘗て我が国に戦争という不幸な時代があったことは事実だが、かくも気高き日本人が存在したこともまた事実である。

翻って現代の日本は如何であろうか。東日本大震災と連動する福島第一原発の事故では、瓦礫の山の中で許容量以上の放射能を浴びながら、決死の覚悟で作業に当たった東京消防庁のハイパーレスキュー隊員に対し、「言う通りにやらなければ処分する。」と発言した大臣がいたという。現場を率いた隊長は「その言葉が一番辛かった。」と心情を吐露している。命懸けで使命を全うする人間に対して、安全なところにいる者が発する言葉であろうか。この大臣が事態収拾の指揮官かどうかは知らないが、真のリーダーでない事は明白であろう。そして責任は我々国民にもある。そうした人物を国会議員として選挙で選んだのも我々国民であるからだ。

しかし、その様な中にあっても一条の光を発する希望の星は確かに存在する。参議院の故山本孝史議員こそは、その最たるものであろう。平成18年5月、参議院本会議で自らががん患者である事を告白して「がん対策基本法」と「自殺対策基本法」の成立を訴え、翌6月に両法を成立させる原動力となり、平成19年7月の参議院選挙にがんの末期でありながら再度立候補して当選を果たし、同年12月にこの世を去るまで「世の為、人の為」に我が身を削って奔走した「命の政治家」である。山本議員の活動は、夫人の山本ゆき氏の著書「兄のランドセル（朝日新聞出版）」に詳しく記載されている。是非多くの方にご一読願いたい。

現在、我が国は政治の混迷や凶悪犯罪の増加、極端な成果主義となった社会構造や低迷を続ける経済情勢等、悲観的な材料には事欠かない。だが国の対応の拙さを批判しても、世の中の在り様を嘆いても、何も始まらない。私もまずは自分一人で行える事から始めてみようと思う。そして全職員に伝えたい。「仲間が、施設が、国が何をしてくれるかではなく、仲間の為、施設の為、国の為、何が出来るか考えてごらん。」と・・・。